

「防災特別授業を受けて」

一年二組 大川彩乃

「防災」という言葉を聞いて真、先に浮かぶものは何でしょう。私は、「家族」が連想されます。津波体験談を聞かせていただいた時も、「私なら家族とはぐれると笑顔はきくと消えるだろうな」と考えました。ふだん、私は母に反こうし、妹には冷たく接したり乱暴な言葉使いで話したりしています。

体験談を聞かせていただいている時その事を思い出しました。おごく自分のしている事がはかしく思いました。

私が小学校二、三年生の時に体験した話なので、私は、よく母の知り合いの人などに遊びに連れて行ってもらうたりしています。いつも母と妹は一緒に行かず、私一人だけ連れて行くこともありました。行く時に、「ほぐれないようにね」と言われていました。

その当時の私は、好気性でいつの間にか

いなくなったりという事が何かあったそうです。
 私自信は、迷子になるなんてありえないとい
 う気持ちでしたが、たので、あちろちろと走
 りまわっていたのです。ある日、いつも通り
 遊びに連れて行ってもらった時、気になる物
 があってたのでそれを見ていると、知り合いの
 姿がなかったのです。私はビツワリしてその
 場を立ち去り、夢中で走って探しまわりました。
 た。その時に電話をかりようと思っただのです
 かけたい電話を持っていない年まで連絡で

きませんでした。公衆電話を使おうと考えま
 したか、お金は預けていました。どうしよう
 もなかったのです。その時に頭に痺かんだの
 は母の言葉と、家族の顔でした。二時間後ぐ
 らいにや、と再開でき、知り合いの人は泣き
 なから私をだいて、しか、てくれました。本
 当に良かったです。その話を聞いた母は、
 もしもその場面が地しんだ。たらとらうするの
 ことおこりました。地しんなら。考えれば
 考える程、意見がわかります。その意見を一つ

出ると、「家族の中で、もしもはぐれた場合
を考えると、話を年に一度なりする」というこ
とです。めんどうかもしれないけど、私にと
ても、みなさんにとっても大切なことだと思
います。

この授業を受けて、考えがたくさを増えま
した。その考えを、将来の子供や、まごなど
に必ず話したいと思います。

本当にありがとうございました。とても、
ためになる貴方のような話を、とてもべから

感しやしてきます。